



## 目的 市民のプラットフォームをつくる

前年度に学んだコミュニティ・オーガナイズングをもとに、沼津市民シンクタンクの創設のための仕組みづくりをおこない市民のプラットフォームをつくる。

## 現状 市民活動の連帯が図られていない

市民活動についての相談できる中間組織がなく、市民が主体的なまちづくりを行うためのプラットフォームの機能はない。よって、行政のお金に頼らずに、市民が場を拓き主体的な活動を行うための、市民のお財布(コミュニティ基金)や市民連携を図り、地域経済を回していくためのノウハウの蓄積やツールがないため、市民の主体性が奪われており、市民の市民による市民のための市民活動が停滞している。

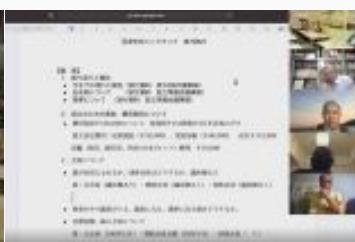
## 活動 プラットフォームを作るための会議/WS/実践を重ねる

### 学習会・会議／ワークショップ

- ・ コロナウイルスの影響により大幅な変更となり、オンラインを中心に行った。
- ・ 静岡県立大学ファシリテーション同好会に協力(県大研究費)していただきオンラインMTを行った。初めてオンライン、zoomを利用する人も多かったが、戸惑うことなく円滑に会議を行うことができ、その後の会議参加もスムーズに参加してもらえた。(参照: [大学生が考えた大学生のためのファシリテーションガイド](#))
- ・ キックオフとして県大研究費を利用し、2名の講師を招聘。学習会とWSを行い、組織化するためのエッセンスを学ぶ。その後、合意形成するために会議を繰り返した。

### 実践

- ・ 3月末に最終的な目標であるプラットフォームをつくるための住民組織化を行い、一般社団法人を立ち上げた。設立総会には32名が参加した。
- ・ 市民の課題解決のためのプロセスの実践として、沼津市ひとり親会のコロナ禍の課題についてアンケートを実施し、要望書を提出。また、沼津のくらしを守る市民連帯を組織化し、年末年始のお困りごと相談会を行った。



## 振り返り課題 持続可能な活動にするためのつながり100名を目指す

コロナの影響で、対面によるWSを開催することができず、当初見込みよりも参加してくれる人数が減ってしまったが、持続可能な活動にするためのつながり100名をめざし場づくりを行う。コロナ渦で市民の困りごとを中心とした取り組みの中で、新たなつながりが生まれた。さらに、つながりを広げていくために定期的に市民会議などを開催していく。

今後は、更に市民の問題解決のために、コミュニティ・オーガナイザーが必要とされているため、今後も育成を行っていく。

市民の抱えている様々な困りごとについて、多様な市民が連帯し、主体的な市民活動がコロナの影響で実行された。実行できた理由として、市民活動の拠点とされる、公共施設がほぼコロナの影響で利用できなかったが、市民の様々な困りごとが集まる生活困窮者自立相談支援センターに、困りごとを支えるために市民が集まったことが大きい。困りごとを中心に地域に力を持つことができた。コミュニティ・オーガナイズングをかけながら少しずつ組織化することにつながった。